



富岡公民館  
渡邊 健二 館長

昨 年の東日本大震災では、大津波により大災害が引き起こされました。海拔の低い位置にある富岡公民館においても他人事ではないということで津波訓練を実施しました。今回の訓練を実施するにあたり、かねてから自宅周辺の避難ルートだけは認識しておく必要があると改めて痛感しました。また、ここ数年使われておらず竹藪になっていた道が、いち早く高台に避難するのに有効なルートだということがわかり、数人で藪を払い、ロープを張って避難ルートを整備しました。災害はいついかなるときに遭遇するかわかりません。もしものとき、今回の訓練が役立てばと思います。

①公民館放送で津波警報が流れ、高台へ避難する地域住民。②使われていなかった道の藪を払い、避難ルートを整備した。③全員が無事避難したか確認をする。④高齢者が安心して避難できるように誘導を行う。⑤公民館に集まり訓練の報告、総評を行う渡邊館長。



# 防災 地域ぐるみで災害に備える

災害は突然やってくる。災害が大きくなるほど交通網の寸断などにより消防や自治体などが十分に対応できなくなることも考えられます。このようなとき、地域住民の自主防災力の差が被害に大きく影響します。今、「地域ぐるみで災害に備える」ための意識向上と行動が求められています。

枕崎市はかつて「台風銀座」といわれていたように、「枕崎台風」や「ルース台風」をはじめ、411人が犠牲になった「黒島流れ」など、過去に台風により多大な被害を受けてきました。また、これから梅雨の時期には河川の氾濫や土砂崩れの恐れがあります。さらに東海・東南海・南海地震が同時に起きる3連動地震が発生した場合、震度5弱、最大3・7の津波が予想されており、その備えも重要になっていきます。



▲1951年に本市を襲ったルース台風は、死者27人3,223戸全半壊という甚大な被害をもたらした。

## 「地域は地域で守る」富岡公民館の取り組み

富岡公民館自主防災組織による津波避難訓練が5月27日の早朝に行われました。同公民館では、住民の防災意識を高めようと4年前から防災訓練を年1回行っています。花渡川沿いにある同公民館のほとんどの地域が難を開始しました。歩くこと約10分、避難場所に到着すると、各班の班長が人員点呼をし、全員が無事避難したことを確認しました。

このあと、公民館に集まり渡邊健二館長から災害に対する公民館としての考え方や統一事項などを参加者に説明して訓練は終了となりました。訓練に参加した三浦典子さん(83)は「目的をもって行動することが大事。上りやすく、分かりやすい避難場所を公民館に示してもらえて安心した」と、また園田力さん(77)は「高齢者が多い地域であり、身体の不自由な人をどうやって避難場所まで連れて行くか決めておかなければいけない。訓練しておけばすぐに動ける」と訓練の重要性を話していました。

高齢者の多い同公民館では、緊急時にすぐ避難できるようにと、75歳以上の高齢者世帯の名簿を独自に作るのと同時に、緊急時の対処法を話し合うなど、きめ細やかな防災対策を練っています。

## 自主防災組織の充実を

市総務課危機管理対策係の加藤省三係長は次のように話します。「大規模な災害が発生した場合、消防や自治体などの防災

関係機関の行う活動には限界があります。このようなときに力を発揮するのが地域住民で組織する『自主防災組織』です。本市では今年5月1日現在、全76公民館中55公民館で結成されています。

また、本年度中に枕崎市地域防災計画の全面改訂を行う予定で、その中で自主防災組織の育成強化、組織化の促進、活動の推進等についても定めてあります。災害時には、自分の身は自分で守る『自助』、地域住民がお互い助け合って地域の安全を確保する『共助』が被害をより少なくすることにつながりますので、『自主防災組織』の組織充実を図っていただきたい。

いつ起こるかわからない災害ですが、備えておくことはできます。少しでも被害を最小におさえられるよう、各地域での実践をお願いします。

問合せ 総務課危機管理対策係  
TEL 72-1111(内線214)



総務課危機管理対策係  
加藤省三 係長